

十一月に入って最初のそろばん教室でのこと。高校の寄宿舎に入ったパトリックがそろばん教室にやってきました。とてもとても嬉しいことです。これまでもこうして高校の寄宿舎に入り学校がバケーションでアフィフェ村に帰ってきてきて教室にやってきた子どももいます。クレナムです。一生懸命そろばんを続けているながらも高校受験や寄宿舎に入るために村を出るのでそろばん教室に通えなく(はたまた通わなく)なってしまうのです。高校に入ってもそろばんを続けて欲しい。この願いは子どもが村を出て寄宿舎に入らないとならず、いまでも願っていることでもあります。また、マイそろばんを手にした子どもはせめても練習を続けて欲しいなと思うもの確認したことがないので実際どうなのかはわかりません。しかし、今回のパトリックやかつてクレナムが高校生になっても来てくれたことは、本当にうれしいことです。想い続ければ、願い続ければ叶うのだと思えました。実は、パトリックに対して後悔していたことが一つありました。それは75回の皆勤賞です。パトリックがまだ中学3年生だった時のそろばん教室は、パトリック自身の用事で欠席するなど出席率が落ち込んでいた時がありました。私一人でもた焦っていました(今日を入れてあと●回来ないと皆勤賞に辿りつけない)そんな思いで私の一時帰国前そしてガーナに戻ってからの開室日はヤキモキしていました。そうした中、高校は十一月から始まると聞いたのです。これはチャンス!と思ったものの9月最初のそろばん教室を最後に来なくなってしまうのです。この時の出席回数71回。皆勤賞まであと4回です。もっと叱咤激励をして、出席を以前からさせておけば良かった。けれど、今回たまたま土曜日に村に帰って来ていてそろばん教室に顔を出したパトリックを見て、私の昔から抱いていた想いが叶うと確信した以外にも、パトリックの皆勤賞も可能だと確信しました。

あと3回です。どの子どもに対しても(あの時、こうしてあげれば良かった)と後悔があります。ブラザー、ギルバードたちにもご褒美で日本祭りよさこいに招待しておけば良かったと。67号でお伝えしたよさこい祭りにご褒美として招待したのは、ギディオ、コンスタント、ダバス、そしてパトリックの4人。これはそろばんの練習を頑張っているご褒美。残念ながら、やはりセデムは外しました。日頃、大勢の日本人をあまり見ない子どもたち、それどころかアクラにでさえ慣れない子どもたちは最初緊張の面持ちでしたが、途中から自分たちと同じガーナの子どもたちが踊るよさこいに見とれ楽しんでいました。後日(楽しかった?)と聞いたなら、当日会場では見ることでできなかったいつもと同じ笑顔でイエスという答えが返ってきました。この日本文化を感じ、楽しめるお祭りにブラザー、ギルバードを招待できなかったのは今でも後悔しています。悩んでセデムを今回ご褒美者から外したのにも関わらず、そろばん教室の生徒では無い生徒を3人引率してきたことは、私がそろばん教室の運営に日々悩み、そろばん教室の子どもは特別に可愛いという想いを笑いながら踏みじられた感が否めなく、こうして学校サイドで勝手に子どもを増やすのなら来年は招待をやめようと思うとまたそろばん教室に通う子どもたちへの後悔が増えるのかなとまた自問自答が始まりました。子どもたちに(あの時、こうしてあげておけば良かった)という後悔をしない運営をしていきます。

報告 TOSHIKO



協賛

トモエそろばん様